



中部地域の市民を対象にしたワークショップ。開発途上国の現状や国際協力について、ナイジェリアの研修員と説明する清水さん

開発途上国にも日本にも 役立つ研修を実施したい

ものづくりや環境保全、農業など、中部地域の強みを生かした研修を行うJICA中部。清水浩二さんは、開発途上国の発展と日本の地域の活性化を目指した研修づくりに取り組んでいる。

下水処理の技術を 国際協力に生かす

多摩川の水をいかにきれいにするか。大学時代、卒業論文を書くためにこのテーマについて調べていて、水質改善のカギは、生活排水を川に流さないことではないかと考えました。そこで興味を持ったのが、下水道の整備です。

卒業後は、下水道の設計などを手掛ける建設コンサルタント会社に就職。技術者として、下水道や下水処理施設の設計などの実務経験を積みました。特に印象に残っているのは、2004年のスマトラ沖大地震・インド洋津波後のスリランカでの復旧の仕事です。現地では多くの人が避難所で暮らしていました。生活排水は放置され、衛生状態はほとんど悪化。そこで私たちは、下水を簡単に処理できる施設を造りました。

下水処理の技術を切に必要とする人々の役に少しでも立つことができ、とてもやりがいを感じました。下水で困っている人が多い開発途上国で働きたいという思いが強くなり、国際協力に本格的に携わるため、2008年にJICAのジュニア専門員※に挑戦することにしました。

現地のニーズに 合った技術を提供

09年10月から1年半、シリアで下水道設計



JICA中部
研修業務課
清水浩二
SHIMIZU Koji

大学卒業後、建設コンサルタント会社に就職。退職後、JICAジュニア専門員、JICA専門家、地球環境部(特別嘱託)を経て、2012年4月から現職。

の人材育成を支援することになりました。日本とは、気候、生活習慣、経済規模も違う国。まずは全14県を見て回り、現地の技術者と意見交換をしながら、その土地に合った下水処理とは何かを考えました。その結果、特に地方の農村部では、建設費が安く維持管理しやすい方法にニーズがあることが分かったのです。そこで、浄化作用のある植物や広大な池を活用する方法を講義で紹介したのですが、その時のシリア人技術者の真剣な表情は忘れられません。現地の環境や技術者と向き合う現場力こそ、国際協力に必要なと感じるようになりました。

イベント開催で 地域の良さを再発見

その後、社会人採用でJICAの職員となり、JICA中部で働いています。ここは、世界に誇れるものづくりや環境保全などが盛んな地域。その技術や知恵を途上国にも還元したいと、国内で実施する研修を担当しています。

例えば長野県飯田市では、日本では珍しく、住民が自らため池や下水道の整備、農産品の加工などの計画づくりに関わっています。住民参加を促すことで地域の自立性を高めたいと考えている途上国は多く、特に地方行政官にとっては学べることが多いはず。そこで、実際に飯田市に来て地域活動の現場を見ることで、住民参加の実践例

を学んでもらう研修を実施しています。

またJICAとして、研修に協力してください。高齡化が進む飯田市では、古墳や環境の保全といった昔からの地域活動を知らない住民が増えていることを知り、このように素晴らしい取り組みが次の世代に引き継がれないのはもったいないと思います。たどり着いたのが、研修員との交流イベントでした。

当日、こちらの意図が住民の皆さんに伝わるのか正直不安でしたが、来場者の感想を聞いてほっとしました。「飯田市ほど住民によるまちづくりが成功しているところはない」という研修員たちの声に、「市の取り組みが海外でこんなに評価されているとは知らなかった」と。研修を通じて地元の魅力を再発見するきっかけづくりができ、とてもうれしく思いました。

これからも、途上国、そして日本の地域の活性化に貢献できるように研修を実施していきたいと思っています。



専門家として派遣されたシリアで、下水道を調査する清水さん(中央)

※将来にわたり国際協力業務に従事することを旨とする若手人材の育成のため、一定期間、実務研修としてJICA事業に携わる制度。